

メッセージアウトライン

ヨハネ15：18~27「世から選び出された者」

「もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい」(18) 世はイエスを信じる者を憎むが、それは彼らが最初ではなく彼らより先にイエスが経験されたことであつた。→マタイ21:45~46,ルカ4:28~29,ヨハネ11:57 この世がイエスの弟子たちを憎む理由は、彼らが悪を行うからではなく、彼らがこの世に流されず、この世のものとならず、かえってイエス・キリストによってこの世から選び出されて、イエスのものとなり、そのみことばに従っているからである。(19)この世はサタンの支配の下にあり、サタンがイエスを憎むのと同じく、この世もイエスの弟子たちを憎むのである。

「しもべはその主人にまさるものではない」(20) これは13:16でイエスが言われたことばである。この世がイエスに対してとる態度は当然その弟子たちに対しても同様であつて、弟子たちは別だというわけにはいかない。彼らが受ける迫害の原因は、「わたしの名のゆえ」(21)つまりイエスの名のゆえであつた。そして「それは彼らがわたしを遣わした方を知らないからです」とイエスは言われる。ユダヤ人たちは神のことばである聖書を与えられながら、その表面的、儀式的、形式的なことのみを追い求め、まことの神を見失っていたのである。

イエスを最初に迫害したのは異邦人ではなくユダヤ人たちであつた。異邦人ならば彼らはまことの神を知らなかったのだという弁解もできたかもしれないが、実際は神の選びの民であるユダヤ人がイエスを迫害したのである。その罪について彼らに弁解の余地はないのである。(22)

「わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいるのです。」(23)ユダヤ人たちはイエスを憎むことによって彼らの信仰の対象であるべき神をも憎んでいることになる。なぜならイエスをこの世に送られたのはこの父なる神だからである。彼らはイエスをもイエスの父をも見て、その上で憎んでいる。(24)それは聖書のみことばが成就するためであつた。(25)→詩篇35:19,69:4

この世の激しい憎しみと迫害の中にあつてもイエスについてのあかしは、イエスがこの地上を去られた後も受け継がれていく。その証人となるのが、「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊」(26)であり、その公生涯の始めからイエスと行動を共にしていた「あなたがた」(27)なのだとされている。このように御霊の助けを受けてなされる使徒たちの証しは特別な權威があつた。→使徒5:32,15:28 そして今、彼らがイエスについて語り、神の特別な靈感を受けて書き記したものは新約聖書として私たちに与えられている。使徒たちは初代の弟子であつたが、私たちが今この時代に生きる者として、イエスの弟子である。それゆえ私たちがこの世から憎まれ迫害されることもある。しかしどのような時にも私たちはイエスによってこの世から選び出された者としての自覚を持ちつつ、御霊によって助けられ導かれながら、イエス・キリストの証人として福音を宣べ伝え、証しする者となっていきたい。

ヨハネ16:33,Ⅱテモテ3:12